

私はただいま議題となっています、認第1号から7号までの一般会計並びに各特別会計と公営企業会計の水道事業会計決算認定、下水道事業会計決算認定において意見は付して賛成する立場で討論いたします。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症への対応に加え、真に必要な事業への財源の確保の重点配分と経常収支比率の改善や新たな財源確保と必要な補正予算を14度の措置した結果、厳しいながらも基金や交付金等を上手く活用した編成となっておりました。

まず、主な歳入から前年度対比で見ると、法人市民税、軽自動車税、たばこ税含め約1億6,000万の増、個人市民税、固定資産税、都市計画税が約5億1,700万の減となったことで、全体では、約3億5,600万の減となりました。ですが、税率引上げ分が反映された地方交付金の増、法人事業税交付金の増、株価の高騰により株式等譲渡所得割の交付金の増等のより、各種交付金の増や地方特例の新型コロナウイルスの感染の影響を踏まえた減収額の補填を伴う特例交付金の増等もあり、一般会計歳入決算額は、前年の繰越明許費を含む約642億、歳出決算額は約611億となっております。

次に各項目別に歳出について申し上げます。

総務費では、愛宕駅前出張所の開設、ボックス型授乳室、忍者企画展、自転車を活用したまちづくり事業、市税等の収納率向上を図るためのスマートアプリやSNSを利用した口座振替の加入勧奨の強化、滞納者に対する自動催告の強化と利便性向上と収納率向上に鋭意努力があったことに評価します。また、新型コロナウイルス感染症の市の独自対策のため、公共施設92か所のトイレ手洗い自動水洗化の実施により、市民の安全が図られており評価します。

民生費では、重層的支援体制整備事業への移行準備、生活保護の被保護者を対象にした就労準備支援事業、継続事業の老人福祉センターの完了と待機児童ゼロ達成に向けての建設助成、新型コロナウイルス感染症関連では、特別給付の実施や、市独自による新生児特別給付、児童手当上乘せ給付、子育て世代への所得制限分の実施をいたしました。

衛生費では、新生児聴覚検査費用助成や不妊症・不妊症治療費助成の開始と関宿クリーンセンター解体事業の完了、さらには、コロナワクチン接種の取組や市独自の緊急対策として指定ごみ袋の追加配布、水道基本料金の全額免除等の実施がされました。公平な支援策であったと高く評価します。ただ追記のごみ袋配布に関しては、工夫があるとよかったと考えます。

農林水産業費では、農産物ブランド化の一元化の一環としての黒酢米農法に取り組んだほか、就農支援事業、水質の改善や排水機場の適正維持管理に取り組み評価いたします。

商工費では、商品開発補助、新型コロナウイルス感染症にかかわる市独自の対

策として個人事業者等協力金、貸切り旅客バスへの支援給付、飲食店感染防止対策補助金等の支給を実施しました。これにより野田市の多くの事業者がコロナ禍を一時的には乗り越えられたとは思いますが、閉店を余儀なくされた事業者もあったのも事実です。協力金に関しては、事業所の規模に応じての対策がよかったのかないしは、一律10万で本当によかったのかを改めて、今後のためにも検証していただければと思います。

土木費では、連続立体事業をはじめとする野田市駅西土地地区画整理事業等の進捗を図り、浸水対策として六丁四反調整池整備等の排水整備費が図られています。

消防費では、消防団分団器具置場1か所の新設工事並びに令和2年度からの継続事業であった消防本部の庁舎改修工事を完了し、コロナ対策として、各消防署の仮眠室における熱交換等設置が計上されています。整備がされたことにより、より一層の消防活動に期待します。

教育費では、小学校3校のトイレ改修工事、GIGAスクール構想による1人1台端末の整備の完了がされ、学校の環境整備に力を入れた取組を評価いたします。また、いまだ学校の外のトイレの改修がされておらず、危険です。季節によっては、きつい臭いが気になる学校もございます。くみ取式から洋式トイレに改修していただけるか、あるいは、撤去を要望いたします。また、オリンピック後の利用者を見据えた総合公園スケートパークの改修工事が完了し、文化・スポーツの振興にも対応された決算となっております。

以上、主たるものを取り上げましたが、財源が限られた中での可能な限りの決算であったと判断し評価します。

また、国民健康保険、介護保険、次木親野井特定土地地区画整理事業、及び後期高齢者医療の各特別会計並びに水道事業会計、下水道事業会計決算につきましてもそれぞれの目的に沿った適正な予算措置であったと評価いたします。

最後に、令和4年度以降は、市税の増収が見込まれない中、社会保障費は引き続き増加傾向にあること、円安が続き、物価上昇による経常経費の増加もあることから、財源の悪化が危惧されます。引き続き事業の見直しや、新たな財源確保に向けた取組をお願い申し上げ、私の賛成討論といたします。